

お兄さん・お姉さんは、あこがれの存在

学生ボランティア奮闘中

小平市教育委員会

もともと地域ボランティアが活発でしたが、平成一四年度の学校週五日制導入や、平成一六年度から三年間の「地域子ども教室推進事業」の実施にともない、各校でさまざまな子どもの居場所づくり事業が展開されました。本市での「地域子ども教室推進事業」は、地域で自主的に教室の運営ができることを条件に、モデル校として小平第四小学校地区と小平第八小学校地区で実施することになり、年々内容の充実を図ってきました。引き続き、平成一九年度からは五校で「放課後子ども教室推進事業」として、子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

地域のボランティアの方々も入って、週三日のミニバスケットボールの教室がスタートしました。徐々に子どもたちの参加も増え、さらにボランティアを探していると、コーチの知り合いの大学院生が、アルバイトの合間にコーチとして来てくれるようになりました。子どもたちもたいへん喜ぶので、今ではアルバイトの合間だけでなく、毎回来てくれます。ドリブルで遊びながら練習する「しっぽとり」の相手は、東京学芸大学の学生と都立国分寺高校・都立小平南高校の生徒たちです。四小に教育実習に来ていた学生や、地域に住む学生、子どもたちの兄、その友人など、人脈をたどって、大学生六名、高校生六名が来てくれて、やはり、「子どもたちといっしょに活動する時間」のとりこになり、ボランティアとして汗を流しています。その中には、参加者の兄の中学生もコーチとして頑張っています。子どもたちだけでなく、中学生・高校生・大学生・大人、みんなの居場所にもなっています。

小平四小放課後子ども教室の取組

平成一七年九月に地域子ども教室の一つとしてはじまったミニバスケットボールは、現在登録者が三年生から六年生で六五名。体育館の前で、始まる時間を待っている子どもたちもいて、ボランティアも足を運ぶのが楽しみとなっています。

文化的な教室のほかに、体を思いきり動かす教室もと考えていたときに、バスケット大好きという四小の先生、実業団でバスケの経験がある保護者、また、見守るだけなら、という

また、校長が隣接する津田塾大学に協力をお願いしたところ、大学側でも地域協力の意向をもっていたためスムーズに話が決まり、英語サークルのメンバー六人が、ボランティアとして「英語劇」に参加してくれています。九月の三日間、集中して行うこの教室は、「地域子ども教室」のときははじまって四

小平市の現況

小平市は人口約一八万人、市立小学校一九校、市立中学校八校、東京都多摩地区の東北部に位置しています。

年目になります。学生たちは、セリフをテープに吹き込んだり、子どもたち一人ひとりに役づくりの指導を行います。子どもたちにとっても、お姉さんが教えてくれて、演じることで英語に親しめるので、人気メニューのひとつとなっています。劇の小道具やセットは、子ども教室のボランティアの方々がつくってくれ、最後には、役になりきった子どもたちが、保護者の前で発表会を行います。このようになつながら、四小の英語の授業も学生がサポートしてくれるようになりました。



小平八小でのミニバスケットの取組

「放課後子ども教室」となった今年も、どの教室もますます元気よく活動しています。

(四小地区コーディネーター・下村咲子)

小平八小放課後子ども教室の取組

学校週五日制導入にともない、地域の特徴を生かした子どもの体験活動「土ようひろば in 八小」を学校内で月二回実施してきました。その活動を基盤に、「地域子ども教室」として本格的に実施し、三年間で年々実施回数も増え、安全管理研修や自主的に救命講習や非難訓練を行うなど、常に安全を重視してきました。これらの活動を継承する形で、「放課後子ども教室」として、子どもの安心安全な居場所づくりに取り組んでいます。

この教室には、学校・PTA・地域のほかに大学生や高校生との協力もあります。

平成一八年度には地域の方から情報をいただき、法政大学工学部の皆さんからロボットについて指導をいただく機会に恵まれました。人型ロボット二体を制作しパソコンで操作して対決させるといふものです。細かい部品との格闘、うまくできないときの院生のサポート、そして対決するときの子どもたちの歓声、それはすばらしい体験でした。

このほか、この教室に参加している養護学校の子どものサポーターとして、東京学

芸大学や嘉悦大学の学生も活躍してくれており、今後もこのような大学生との連携をつくりたいと考えています。

また、都立高校での奉仕活動必修導入についての研修に参加した際、都立武蔵高校の先生と話す中でお互いの思いが合致し、ミニバスケットとパソコン教室に高校の生徒さんが参加してくれることになりました。バスケットは一〇月までの一〇回、土曜日の午後男女三〇数名の部員が八小までかよってきました。基本から教えていねいに、そしてほめてほめまくる指導によって、ついに小平市の大会出場までこぎつけることができました。また、パソコン教室では、インターネットモラルと、大学生と造った人型ロボットの操作を高校生がさらに研究し、小学生を指導する難しさを克服しながら一生懸命取り組んでくれました。高校生は平成二〇年度も引き続き指導してくれるということで、心強く思っています。

子どもたちにとって高校生・大学生は身近なあこがれの存在です。また、高校や大学の先生の指導も新鮮だったと思います。アンテナを張り、情報を集めることで実現できることがたくさんありますので、今後は生徒、学生の想いもさらに受け止め、双方にとって実り多い連携を目指して、努力を重ねていきたいと思っています。

(八小地区コーディネーター・井戸雅子)